

翻訳に当たってのヒント

その 12

厄介な不定詞の副詞的用法：

今回は英語の学習経験者なら誰でも知っている「不定詞」について取り上げます。用法としては、「名詞的用法」、「形容詞的用法」、「副詞的用法」の三つがありますが、一番厄介なのは「副詞的用法」です。と言いますのは、この用法が、「目的」「結果」「原因（理由）」の3つに大別されるからです。

さらにこれら三つの用法は、表裏一体の関係にあり、名詞的用法を副詞的用法にしたり、形容詞用法を副詞的用法にしたりと、臨機応変に日本語では訳せるという事情もあります。

[例 1] **To be a good citizen requires common sense.** (名詞的用法) 善良な市民になることには、常識が要る： → (副詞的用法のように訳す) 善良な市民になるには、常識が要る。

[例 2] **This system delivers the performance to stop sounding the alarm for three seconds.** (三様に訳出可能)：

(1：形容詞的用法) このシステムは、(その) アラームを 3 秒間にわたって停止させるような性能を発揮する。

(2：副詞的用法、目的) このシステムは、(その) アラームを 3 秒間にわたり停止するための性能を発揮する。

(3：副詞的用法、結果) このシステムは、その性能を発揮して 3 秒間にわたり (その) アラームを停止する。

以上のことから、こなれた訳文にするには前後の文脈に応じて適宜用法を変換して訳出しなければならないという厄介な作業が生じます。

まず、「目的」の副詞的用法の意味として、中学校時代に英語の授業で教わった「～するために」というように訳すという決まりがありますが、これがくせ者です。

意味的にはこの用法だと分かっているとしても、いざ翻訳するとなるとこれでは大げさになることが多いというのがこれまでの経験則です。

一例として、次のような英文を挙げます。

I went to the shop to buy a bottle of milk.

これを、「私は一本の牛乳を買うためにその店に行った」と訳したら、それは果たして適訳でしょうか？中学校の英語では、この訳でも 100 点をもらえたはずですが（私の経験から言えば）。しかしよく考えてみると、我々が普段使っている日本語でこのような言い方をするのか？という疑問が生じます。

日本語の日常会話では、このような言い方はあまりしないだろうというのが一般論だと

思われます。では、どう言いかと問われれば、「牛乳一本を買いに（買うのに）あの店に行った」あるいは「あの店に行って牛乳を一本買った」と言うのが普通だと思われます。

特に、後者の場合、不定詞の「結果」の副詞的用法だとも受け取れます（これについては後述）。結論として、「～するために」という日本語訳は、やや大げさであり、「～するのに、～しに」というように軽く訳した方がしっくりまとまる場合が多いというのが、不定詞の目的の副詞的用法だと思われます。

しかし、不定詞の目的の副詞的用法の訳出は「～するために」「～するのに、～しに」だけにとどまりません。「目的」というからには、「～することを目的として、～すべく、～するにあたって、～するようにするため」と訳しても決して誤訳にはならない場合があります。しかしそれでもまだ大げさだと思われる場合に、「～する（したい）ときに（は）」「～する（したい）場合に（は）」「～するには」「～したいのであれば（これは不定詞の※ifの用法に近い）」等と訳すと自然な日本語になることが多々であるということを（特にマニユアルなどの翻訳で）、実務翻訳の現場から指摘しておきます。

以下その例文：

*** Use xx Command to delete the specified file.**

コマンド **xx** は指定したファイルを削除したい場合に（～したいときに=**for deleting ...**）選択（使用）します。（この文章は、文脈によっては次のような訳も可能。コマンド **xx** を選択 [使用] すると、指定したファイルが削除されます。）

*** To take a personal day, please schedule it with your supervisor or department.**

特別休暇をとる場合は、上司や部署の人と相談して日を決めてください。

（**personal day = personal holiday**。年に数日ある特別な有給休暇。）

※ **if** の意味を表す不定詞：

To summarize the points, they are as follows:

要点を要約すると次の通りである。

次に、「結果」の副詞的用法。ちまたの文法書の解説書には「**only to do ...**」の形で使われ「（ある行為が期待はずれの結果に終わり）結局～した」というような意味であるとの解説が載っています。実際の英文では、「**only**」が付かない普通の不定詞の形でこうした文章によく出くわします。

これまでの経験則から言えば、「**to** 不定詞の結果用法」とは、「頭から訳し下ろせる『**A** して **B** する』」（意味的には"**A and B**"でつながる）用法だと断言できます。「**A** から訳しても **B** から訳しても意味的に同等な関係になったり」、「**A** した結果 **B** が得られたりするような場合」は、大体この用法で使われていると思われるからです。

これでもまだピンとこない方は、以下の例文をご覧いただければ、ご納得いただけるでしょう。

[訳例] :

1. Press the CD-ROM eject button to make the tray come out. CD-ROM 取り出しボタンを押し、トレイを引き出す。
2. Main memory holds programs and data to send to the CPU. メインメモリは、プログラムやデータを保持し、CPU へ供給する。

他に注意したい不定詞 :

※ be 動詞 + to 不定詞 (予定や義務をあらわす)

I am to see him this evening. (今夕彼と会うことになっている。[予定])

※ to を使わない不定詞

一定の動詞(hear, see, feel, watch [知覚動詞]; bid, dare, help, let, make など)のあとでは to を入れないで不定詞を使う。hear と see の場合、「目的語+現在分詞」を伴うほうが多い。

We heard her (to) shout.(= We heard her shouting.) / I saw him (to) take the money.(= I saw him taking the money.[受動態] He was seen to take the money.) / I felt the house shake. / I watched (saw) him drive (driving, "to drive"は不可) off. (私は彼が来るまで走り去るのを見た[じっと見た]。) / The police officers bid us (to) leave immediately. / I didn't (wouldn't) dare (to) wake him. ([to]はよく省略される。あえて彼を起こせなかった[起こす気になれなかった。])、I dared not to wake him. (思い切って彼を起こせなかった。) / Help me (to) carry the bags.; You must help (to) mow the lawn.(help の場合[to]があってもなくてもよい。目的語がない構文でも同じ) / Let her friend help her. / She made him wait for two hours.

以上、副詞的用法を中心に不定詞を取り上げた今回の翻訳一口メモでした。